



俄羅斯紀聞三集
二

早稻田大學附屬
圖書館
寄第 川田氏寄抱
654
第 200
第 2994
出帶許不外
ル 8
22



ル 97
3038
28

ル 8
2994
22

通商

モ

スコラノ都辺ハ一切日用ノ物及ヒ旅人ヲ
 宿ヤシムルノ價共ニ皆甚賤シクミテペラ
 ルスブルクニ比スレバ費用ノ少キ一三
 分ノ二十リクシペラルスブルクハ新ニ造
 建セルノ都ニメ初メハ諸方ノ商船車馬運
 送ノ貨物取テ今ノ如クニハ輻湊セザリシ
 ニ因テナリ然レ氏其後次第ニ諸方ノ貨ヲ
 輸ス下日ニ夥シキ一億ニ非ザルニ因テ其
 日用ノ貨物亦賤シクミテ初メ一萬ルウベ

ルス金銭ニアタリシ物今ハ四千川ウベル
スニアタルナリ

モスコウ都迎都テ諸穀諸菓及ビ畜獸野獸極
テ夥シ然レ任齋日ニハ魚ノ價頗ル貴シト
スコ食レ此國ノ俗持齋ノ日ニハ歎

昔時ハ此國ノ制度法令徳化政教等ノ善ク萬
民ニ行ハレザルニ因テ此都内ノ風俗モ亦
陋シク多クハ懶惰ニシテ間ナルヲ好ムテ
其職業ヲ勉メザルガ故ニ貧人乞丐及ビ無

頼素餐ノ徒甚多クモテ或ハ其貧ニ堪ヘズ
シテ盜掠ヲナス者マコシアリ故ニ土人
夜ニ至ラニトスレバ皆家ヲ守リ戸ヲ閉テ
外ニ出ル者稀ナリ夜行スレバ時々其害ニ
逢フ殊ニボオトル左エキ節日ノ時ヲ最甚ニ
トス曾テボオトル左エキノ夜ヲスギテ旦ニ
及テ都内ニ於テ殺傷セラレタル屍凡六十
ヲ得タル下アリコレ此土人ノ常ニ以テ大
患トスル所ノ者ナリ他州ノ人ハ其國政ノ

善ナラズノ此ノ如キヲ笑ヒ嘲リテ言ヘル
「アリ曰ク上帝居太^タ高^コ國主居太^タ遠^{エン}下民有^有
憂^憂患^患無^無所^所去^去」所^所去^去トコ^コ頡^頡ヲ^ヲ押^押テ^テ所^所作^作ノ^ノ者^者十^十
所^所今^今譯^譯如^如ス^スル^ル

然レ氏此國ノ德化政教其後日々ニ盛ニシテ萬
民次第ニコレニ化シ各其道ヲ守テ其職ヲ
勤メ且官府ヨリモ嚴ニ盜賊ヲ緝捕シ殊ニ
千七百十六年日本享保元年清ニ貴族ヘド
ルルゴウツナル者此都ノ刑官ノ長タリシ

時ニ克復ノ諸首領及其黨與ニ至ルニテ悉
クコレヲ捕

ヲ分チ其内ニ於テ磔トナス者凡ニ百人其
他亦皆刑罪ニ処シテコレヨリ後ハ都内悉
ク靜謐ニシテ萬民皆太平ノ化ニ浴セリト云

○西魯西丑諸州志第五

西魯西丑ノ諸州其十七ハコトウナリ其地モ

ス口ウノ北ニアタリ其部内ニハ
コトウハ其府ニメコト山ト云ル河ニ傍

ヒロストフト云ル湖水ノ西北ニアリコシ
大府ニシテ多クノ寺觀アリ皆石ヲ以テ造
建ニ且美飾ヲ加フ然レ其城ノ如キハ即
チ未ラ以テコレヲ築ケリ此府ハコレ魯西
亜國ノ四ノト口ポリテ儒官ノ貴爵ナリ
其一ノ所居ノ地ニメ府城ノ周廻スベテ多
クノ小サキ郭邑コレヲ繞ル又此府外凡半
時日本時程ノ処ニ一ノペウラルサ口ウツ
ト云へル説法堂アリ此処亦人家多ク凡此

土人蒜葱ノ類ヲ種ルヲ以テ業トナスモノ
多シペレスラウハ都會ノ地ニメ城子ルラ
ト云ル小河ノ源ノ辺ニアリ則チモスコウ
エロスラウニ州ノ尚ナリ
ウグリツハ赤一都會ニメガ加河ニ傍ヒエ
ロスラウノ界ニアリ地志或ハ此地ヲ以テ正
ロスラウノ内ニ屬セルモアリ此地ハ魯西
亜ノ史書所載ヲ按スルニ甚ダサニ名高シ
コシ此國ノ帝ヨハニ子スバシリウステ
四

左エテノ子テメトリウスナル者其兄トシテ
テオドルスイハノ小舅ボリスナル者ニ忌
マシテ國都ヨリ此ニ左遷セラレ九歳ノ時
遂ニ害ニ遭フ然レ氏歳ヲ経テ後テメトリ
ウス尚存生ヤリト称シテ二人ノ偽テメト
リウスヲ出シコレニ因テ魯西亜國大乱數
年ニ及びモテアリニ因テ其事詳ニ
下ノ本紀ノ中ニコレヲ記ス

其十八 ハ公國エロスラウナリ其地ロストウ

ノ北ニアリ
エロスラウ其府城ニメ高ル加河ニ傍ヒ廣
大壯麗ニメ人居繁華高賈漆

其十九 ハビイレエホラナリ其地エロスラウ

ノ西北ニアリ
ビイレエホラ一名エロハ其府ニメ地小
ナリト雖モ沼澤処ニアリ 又樹林多ク
メヨク諸村ヲ出シ且水流多クメ地勢要害
甚堅固ニ又湖水ニ臨ミテ一ノ堅固ナル城

郭ヲ造築セリ

ゲブロワ一名ゲレボワ又名ゴロボハト云

コレ小城ニシテモログト云ル河ニノソメリ

其二 ハ公國ウラグダナリ其地ヒイシエホラ

ノ東北ニアタレリ

ウラグダハ廣大堅固ナル府ニメ其城ウラロ

グダト云ル河ニノワミアールワビスコッブ

僧官長コレニ居ル一ノ大寺觀アリカボルト

名ク其規制極テ美廉ナリコレ意太里亞國

ノ工師即チ此國都モスコウ城ヲ築キタル

者ノ所造ナリト云此外尚石ヲ以テ造建ヤ

ル寺觀二十一アリ皆其瓦ハ鐵錫ヲ以テコ

レヲ製シ且其上ニ鍍金ヲナス故ニ天日ニ

照映スレバ光輝祭燭トメ人ノ眼ヲ射ル其

他又木ヲ以テ造建セル寺觀四十三及ヒ四

ノ說法堂アリ其三僧ノ所居ニメ其一ハ尼

ノ所居ナリ

其二十一 ハ葛ル哥波利ナリ此地北ハ白海ニ

臨ニ南ハ「ウ」ログダニ界ヒ西ハ「オ」子ガ湖ニ
至リ東ハ「杜」亦拿河ニ傍ヘリ
昔「尔」曷波利ハ其府城ニシテ「オ」子カ湖ニノグ
ニ其府小ニシテ造建モ亦粗朴ナリ

其二十二「カ」ルガボリスカイカレリ「ア」ナリ其
地「オ」子ガ湖曷尔曷波利白海カ湖ニアリテ
即チ「オ」子ガ湖ノ西「ス」左トヤカレリ「ア」ノ
東ニアタレリ

其二十三「オ」子ガナリ其地「オ」子ガ湖及白海ニ

界ヒ地ニ河アリ亦「オ」子ガト名ク
其二十四「ホ」ルスラニドニ「壽」ノ「ワ」ガナリ其地
「オ」子ガノ東南ニアリテ曷尔曷波利ノ地ニ
界ヒ「ワ」ガト云ル河其部内ヲ通流ス

其二十五ハ「杜」亦拿ナリ其地白海ニ傍テ「杜」亦
拿ト云ル河流シテ海ニ注グ
「ア」ルカニゲル其府城ニシテ美廉ノ地ナリ次
篇ニ記ス

六 **アルカニゲル**
「シ」ントニコラアスハハ城ニシテ白海ニ臨ミ
七

杜亦拿河ノ海ニ注クノ所ニアリテ高貢湊
會ス

コルモゴロトト亦小城ニメ杜亦拿河ニフヒ
アルカニゲルノ地ヲ去ルヲ九十一二里和
ノニ十アリ
三四里アリ

○アルカニゲルノ記第六

アルカニゲルハ魯西亜國中ニ於テ最有名ノ
高貢湊會ノ城地ニメ便利ナル海港ニノゾミ
此總國ノ西北近海ノ地ナリ此府其東南ハ杜

亦拿河ニフヒテ此河ノ白海ニ注グノ口ヲ去
ルヲ九ヲ六時程三日時程ノ北極出地六十四度ニ
十二分ニアタレリ此地ヲアルカニゲルト名ク
ルノ由テ起ルノ所以ハコレアルツエニゲル
エニゲルハ天ノ義ナリ又呼テベエメルボツト
云コレ天ノ使ノ義ナリ即チ身ニ翅アル人ナリ
按ニ西洋ノ古説ニエニゲルハ天神ニメ其中ニ
上中下三等ヲ合テ其第一等ハ又合テ三階ト
ノ凡ソ九階アリ其第八階ハ又合テ三階ト
云即此ニ所言ノ者ナリ第九階ヲ合テ三階ト
外ホラト云コレ尋常ノ天ノ神ナリ又此九階ノ
ニアリコトニ云コレ尋常ノ佛ヲカエルニゲル
ニ云天ノ魔波句ノ類ナリ佛ヲカエルニゲルノ内

名ノ一神ノヲ奉メ此地ノ守護神トメコレヲ尊
崇スルニ因テヤリト云フ
和蘭語トツエニケル
語ニテアルト云フ
即チアルツト云
ニゲルト云フ
即チアルツト云
カニゲルト云フ
即チアルツト云
抑此地ハ昔時ハ北方偏僻ノ一処ニシテ諸邦ニ
於テ此地アルヲ知ルモ亦稀ナリニガ其
後諸厄利亞及ヒ和蘭ノ人航海ニテ此ニ通商
セシヨリ列ルハ等ノ土人モ亦多ク居テ此ニ
遷シテ今ハ魯西亞國中ニ於テ最有名ノ富饒

繁華ニシテ高賈湊會スル城地ノ其一トナレリ然
レ此府内ハ甚廣大ナルニモ非ス其幅員行程
長サハ一時ヲ四分ニスルノ三ニシテ幅ハ一時ヲ
四分ニスルノ一ナリ然レ其海港ハ甚廣濶
ニシテ恒ニ大船三四百艘ヲ駐ム而シテ此府内ニ
於テ最壯麗ナリト稱スル者ハ則チアラバトナリ
コレ都會ト云ル義ニシテ悉ク石ヲ以テコレヲ
造建シ其内又分テ三部トス其第一郭ハコレ
即チ諸ノ貨物ヲ貯ヘ保護スルノ所ニシテ且外
九

邦ノ高賈此所ニ聚居ノ冬月ハ此父寒氣殊ニ
甚シク行旅ニ宜シカラザルヲ以テ皆此ニ駐
テ歳ヲ度ル府内ノ往來モ此時ハ留車ヲ用テ
雪中ヲ過ク國都モスコウトノ往來ハ如キモ
水陸ノ行共ニ十月彼邦ノ曆法ヲ以テ云日ヲ
以テ限リテス第二部ニハ政刑ヲ議定スルノ
廣大ナル官廳及ヒ官府ニ収ムル所ノ貨物ノ
府庫アリ具府庫空屋或ハ木ヲ以テコレヲ造
ルモアリト雖凡多クハ石ヲ以テ堅固ニ造建

シテ以テ貨物ヲ貯フニ安穩ナラシム其官廳
ハ規制宏廓ニテ又高上ナリ此ニ請ルニハ其
間長キ階ヲ登ル又此官廳刑罰ノ事ヲモ司ト
ルト雖凡絶テ人ノ死罪ニ至ル者ナシコレ此
國政令寛仁ニシテ其流人ヲ按驗スルニ專ラ
其情ヲ悉詳スルヲ主トシテ忘リニ上タル者
ノ嚴威ヲ示サズ其衆民ノ如キモ亦素ヨリ上
ノ徳化ニ信服シテ敢テ甚シキ禁刑ヲ犯スル
ナキニ因テナリ又其第三部ハ即チ魯西亜本
十

國ノ商賈ノ徒聚居スルノ処ニメ府庫ノ制華
整ニメ出入ヲ嚴ニシ其郭内ノ街衢ハ皆廣潤
ニシテ其末ハ杜亦學河ノ辺ニ至レリ
凡ソ他州ノ諸大船此ニ至ラントスルノ期ニ
ハ必預メコレヲ待テ材木ヲ集テ河上ニ渡シ
テ大ナル橋ノ如クニシテ水上ニ路ヲ開キ以テ
船上ノ貨物ヲ上下スルニ便ナラシメ又舟
人ノ憩息ニ便ナラシメテ其旁ヲ船ヶ穀類ノ
如キハ舟ヲ以テ大船ノ縁ニテ運送スルナリ

此^下アルカニケルヲ鎮守スルゴウヘル子ウヒ
都所居ノ城ハ規制頗大ニメ水ヲ以テ墻ヲ築
キ澁ヲ鑿テコレヲ繞ラシ其辺多クノ市店ヲ
設ク此処ニ於テ魯西亜ノ人毎歲定例ノ互市
アリテ夥シク貨物ヲ交易ス
此府内ニ魯西亜人所建ノ諸寺觀ノ外ニ尚ニ
ツノ寺觀アリ其一ハ^ハルム^テノ宗法其
一ハ^レテ^エル^スノ宗法ノ寺ニメ共ニ河ノ側
ニアリ其寺邊ニ其教師所居ノ家アリ其宗法
十一

及葬禮等皆和蘭ノ式法ニ因ル而シ此地寒氣
猛烈ナルニ因テ冬月ハ葬式ヲ悉スルアリハ
ザルナリアリテ然ルナリハ棺擲テ寺觀若クハ教
師ノ別室ニ寄托ニ服テラントスルヲ待テ方
ニ葬礼ヲナスト云

府内ノ人家都テ木ヲ以テコレヲ造ル皆重大
ナル材ヲ疊テ堅固ニ造成シ其觀美ナリ中ニ
多クノ室房ヲ分テ牆壁皆美廉ニ塗彩ニテ光
澤ナラシム則其牆壁皆材木ヲ以テ疊成セル

者ナリ多ク帷幔ヲ設ケ外面ハ粗ナル帛ヲ用
ニ内面ハ精細ナル帛ヲ用エ一室毎ニ恒ニ一
ノカケル火爐ノ如キ器ヲ置ケテ入ル馬泥塵
國ノ制ノ如クニメ以テ暖氣ヲメ室ニ滿タシム
冬月ハ街衢皆白雪覆滿ス而シ夏月ニ至レハ
沮洳泥濘ニシテ往來輒カラズコレニ因テ街
上悉ク材木ヲ布テ以テ往來ニ便アラシム
昔時ハ此地ノ政刑兵馬賦稅食貨等大小ノ事
悉クテウヘル子ウレル此地ヲ都督ノ意ニ任セ

分^ハトイヘ^ハ銀錢^ハ重^カリニ而^シ此府内ニ居住^シテ高貴
ヲ營ム者ハ即^チテ和蘭諸厄利亞^ガ那^マル^カハ
ハム^ビブル^グブレ^エメ^ニ泥^ニ並^ニ内^ニ入^ル馬^等諸
國ノ人ニシテ黄金^絹帛^哆囉^絨細^毛ノ絲^金絲
金銀ノ^カント^ト縁^衣錠^花諸^種ノ^深科^葡萄^酒燒^酒
等ノ物ヲ携^ヘ来^リテ此國ヨリ所産^ノ蕃^瀝青
魚膠^カヒ^アール^ル魚^ノ子^ナリ^ト云^フボ^ット^アス^ス工
ド^アス^ス灰^名ニ^牛脂^麻エ^クテ^ニ革^ノエ^ラニ^ド獸
ノ皮^及テ^諸種^ノ皮^革ニ^換テ^各其^本國^ニコ^シ

ヲ送^ルナ^リ
今ハ他邦ノ海船此地ニ至^ルテ昔時ヨリハ頗
少^ナシ^コレ^ベラ^ルテ^ゴロ^ト帝^魯西^亞國^中
ノ高貴ヲ多ク^ペラ^ルス^グル^グノ地ニ遷^シ會
セ^シメ^シヨ^リ他國ノ船モ亦^ペラ^ルス^グル^グ
ニ至^ル者多ク^メ此地ニ至^ル船ノ數ハ稍減セ
シ^ナリ^然レ^氏此府ノ尚富饒繁華ナル^テ前ニ
所説ノ如^シ
此府ノ西北ノ方^凡半^時程^日本^程ノ^四十^八處ニ

帝ヨリノ諸海船ヲ造ルノ場ヲ置ク此処規制
壯廉ニシテ人ノ目ヲ駭カス即チ此所ヨリ船
ヲ發メ多ク諸邦ニ航海ス
凡ソ此アルカニゲルノ地ハ食料ニ供スベキ
者極テ夥シクノ且其價亦賤シ大抵雉ハ一對
雌雄ニニテ其價四ストイヘル「ストイ」ハ銀錢ニ
ニ合「合」リ兔モ亦其價同シ「ホウ」トスニツペ鳥ノ一對
ニテ價二三ストイヘル吐綾雞一對又北雞四
五隻又鷺一隻等ハ共ニ皆其價六ストイヘル

ヨリハストイヘルニ至ル牛ノ鮮肉ハ一斤九
六ニテ其價一ストイヘル羔羊生レテ既ニ七
十日ヲ経タル者一頭値十五ストイヘル犢牛
一頭其價三四ストイヘルニ過ギス其他皆
此類ナリ
其杜亦弩河ノ内諸魚極テ殊ニ多クバア
ルニテ出ス「バ」アルニテ類其コレヲ取
得テ二十人ヲ以テ方ニコレヲ負フベキ斤量
ニテ其價二十ストイヘルナリ其外鯨魚鰻鱺
十五

鱈魚比目魚ホラルニホスモオレナヤルゴロ
ニドリニキ等ノ諸魚殊夥シト云

其鯨魚ノ如キハ亦極テ夥シクナ世ニ名アリ
即チ夥シクコレヲ取テ醃藏トナシ或ハコレ
ヲ董シ乾カシテ此地ヨリニテ魯西亜ノ諸州

君ハ外邦ヘモコレヲ輸ス

葡萄酒及佛郎察國ヨリ出ル所ノ燒酒皆外邦

上ニ云和蘭等諸國ヲ云ナルヘシヨリ此ニ輸ス其價甚貴フノ且

其賦トスルノ抽豊亦コレニ称フ是ヲ以テ魯

西亜ニ於テ穀ヲ搗テ以テ製スル所ノ燒酒ヲ

夥シク此地ニ送り輸シテコレニ因テ此地ノ

酒價ヲノ廉ナラシメテ以テ此土人ニ便ナラ

シム

○東魯西亜諸州志第七

ラムトリエスランド東魯西亜ハ莫斯科未亜總國ノ中ニ於テ其中

央ニアタル所ノ地ニシテ即チ下ニ所説ノ六

大州ヲ官領スルナリ

其一ハエゴルスナリ此地北海ニ臨ミ其

七 東口

十六

其二

海辺多クハ曠漠ニシテ其西界ハ白海ノ口ニ至リ此火ノ西北ニカニダスウスト云ル島アリ其島トノ間ハ一ノ狭キ水流ヲ以テ其界ヲ分テリ而メバコシノ官爵ヘルベルステイト云人ノ説ニ曰ク此ユブルスケイノ地ハ昔時翁加里亜國南ニアル國トリ東ノ人乱ヲ避ケテ此地ニ奔テ居リシノ処ニ今此土人ハ皆其子孫種族ナリト云

氷海ニ傍ニ部内都テ山岳林樹多ク人居モ亦蕃盛ナラズベトリト云ル河ヤリテ其部内ヲ通流ス此河ノ兩岸ニ居ルノ人ハコシ古ヘレイトタル江スト云ル國ノ種族ニメ其部内ノ大山ハ古ノ世ニ沙爾馬齊亞ノ大山ト稱ヤシノ山ナリト云此山ヲ莫斯科未亜ノ人稱シテ天ノ帶ト云此山四方ニ連テ隔テ斷ルベシテ此邊多ク上好ノサベシ獸以テ十ハルベシテ及ヒ鷲鳥ノ羽毛タル者ヲ其皮ニ似テナリ及ヒ鷲鳥ノ羽毛タル者ヲ

出ス此地大抵寒氣甚シクミテ西洋ノ五月
ニ至テ氷始テ漸クニ解テ八月ニ至レハ即
テ諸水又皆凍ル九リ此地ハ其疆界「サモエ
デン」小人國等ノ地ノ辺ニ至リテ幅員最大
ナリ其内ニ最モ名アルノ城地ハ
「ペトソラ」即其府城ニシテ「ペトソラ」ト云ル河
ニノグム
「バピノウゴロ」ト小城ニシテ亦「ペトソラ」河ニ
コレヲ廻レリ

其三

ハ「シラニ」ニイナリ其地上ニ云フ二部ノ
南ニアリテ行路險阻ニシテ大林多ク原トコシ
別國タリシカ後ニ魯西亜ニ攻ラレテヨリ
始テコレニ降リテ其州郡トナル其土人ノ
方言モ亦魯西亜ト異ニシテ其風俗亦殊ナ
リ近キ比マテ多ク異形ノ鬼神ヲ崇信セシ
ガ今ハ悉ク魯西亜ノ化ニ懐キテ魯西亜ノ

其四

教ニ從カフ
ハ「兀夫」カスト入ナリ其地上ニ云
大林
十八

ノ大林ナノ西ニアリテ杜亦罕河ニ傍ヘリ
元矣了入即其府城ナリ

其五

ハペルルスナイナリ又名白尔系雅_{又而}

重ト云此地甚廣大ニ其疆界國都_{モス}

コウラ去ル_一九二百里_{日本ノ五}土人

都ラ風俗野鄙ニノ異形ノ鬼神ヲ奉シ又昔

ヨリ多ク日月星辰等ヲ尊ミテ神トナシテ

コレヲ祭祀崇信シテ尚書西亞ノ化ニ服ヤ

ガリシガ千五百五十年_{日本嘉靖二十九年魯}

西亞ノヨハシ子スバシリウ_ス帝ノ世ニ至

テ始テ一員ノ_トス_ツノ僧官ヲ置キ又多ク

ノ官屬ヲ遣シテ其地ヲ治メ政教ヲ施シテ

土人ノ舊染ノ汚俗ヲ改メシム此地夏月ハ

沮泥濘ニシテ行旅往来ニ宜シカラズ冬

月ハ堅凍シテ却テ往来ニ宜シ土諸穀ヲ産

セズ土人都テ狩獵ヲナシ獸肉ヲ以テ食糧

ニ充ツ又一種ノ穀アル菓ヲ出ス又採テ食

ニ供ス飲物ハ惟水ノミ高賈交易ニ錢貨ヲ

用ルヲ知ラズ行路往來ニテ狗ヲ用テ車
擡ヲ牽カシメテ以テ馬ニ代エ其帝ニ貢ス
ルノ賦税ハ惟諸種ノ獸皮ノミナリ
ペルテウエリツケイハ其府ニシテ其造築ノ規制
亦宜キニ稱ヒ加馬河ノ窩ル加河ニ合スル
ノ処ニアリ

其六

ハゲセルミッセニナリ此地ハ原ト莫斯科
未垂ヨリ衆ヲ植ヘシノ処ニメ窩ル加河ニ
傍ヒ分テ二部トス河ノ北ニアルモノハ名

テ「ラゴワアイト」云フ此地夥シク絲ヲ出ス
河ノ南ニアリテ長ク西ニ連ナリタル者ハ
名テ「ナガルノイト」云此地山岳多ク土人ハ
「ラゴワアイ」ノ人ニ類スト雖氏性甚惰ニシ
テ俗亦陋シク野獸及ヒ蜜ノ外他ノ食料ヲ
用ヒズ林樹ノ間ヲ棲トス相傳テ其風俗及
礼式等取テ一定ナルヲナシト云

○莫斯科未垂韃靼ノ中ノ王國アスタラカン

ノ記第八

莫斯科未重韃靼ハ其北亞細亞洲ノ界ニアリ
テ其内ノ諸州其^一王国重私大臘耳ナリコレ
古ハハ韃靼ノ王国ニシテ而シテ重私大臘耳ト
ハ原ハ南幹牙國ハ都ハ名ナリコレニ因テ此
總國ヲモ亦稱シテ重私大臘耳ト云フナリ
今ハ莫斯科未重韃靼ノ内ニ隸ス其地ウレ
ストタルタリ^ト細^ト洲^トノ大^ト韃^ト及^ト七^ト窩^ト爾
加^ト河^トヤ^トカ^ト河^ト北^ト高^ト海^トノ間ニシテ窩^ト爾^ト加^ト河
此地ニ至リテ流レテ北高海ニ入ルナリ

此重私大臘耳ノ都城ハ北極出地四十六度二
十二分ニアタリ其氣候多クハ熱ス大抵九
月十月多ク西北風アリ此時ノ暑熱ハ恰モ
入^ル馬^泥亞^國ノ夏^月ノ最^中ノ暑^ノ如^シ而
ソ六月七月八月ノ如キハ暑熱最甚ニト雖
モ此時ニ至レハ南風涼シクメ恒ニ絶ヘズ
然レモ冬ニ至テ後二箇月有奇ノ間ハ寒氣
亦甚ニクシテ窩^爾加^ノ大^河急^ク氷^トナ^ル
此時ニ於テハ人皆輦ニ加^馬ニテ氷上ヲ渡ル

十リ

此國ハ素^{西緯}下^緯緯度ニ據^度テ考^不ルニ蓋^可シ地不^盡毛十^此ル
ニ非ズシテ肥沃^盡ナルベキ十^盡リ然レ^此凡^盡地氣
發生遲クシテ夏月ニ至^盡テモ則^盡敷度ノ雨^盡ア
ルニ非サレバ生植ノ物尙未^盡ダ萌芽スル^盡ト
ナシ若^盡又去羊ス^盡テニ雨少^盡ケレバ今^盡軍ハ雨
最多^盡キニ非^盡リレハ則^盡テ今年ハ甚^盡歎^盡歳十^盡リ
此國地廣クシテ高^盡ル加河口ヲ以^盡テ其中央ト
云^盡テ此河ヨリソ西ニ向^盡テ延^盡袤入^盡ル馬泥^盡亞

國ノ里法凡^{日本}七十^{日本}里四十^{日本}餘^{日本}里一^{日本}百^{日本}ニシテ大海
ニ至^{日本}ルノ間ハ地都^{日本}テ硯^{日本}碇^{日本}不^{日本}毛十^{日本}リ又^{日本}其河
ヨリソ南ニ北^{日本}高海^{日本}辺ニ傍^{日本}フノ地亦^{日本}入^{日本}ル馬
泥^{日本}亞ノ里法ニテ凡^{日本}八十^{日本}餘^{日本}里十^{日本}餘^{日本}里十^{日本}百^{日本}六^{日本}了
リト云^{日本}フ

此國上ニ如^{日本}云ニ硯^{日本}碇^{日本}不^{日本}毛ノ地多^{日本}シト雖^{日本}凡^{日本}然
レ凡^{日本}監^{日本}ヲ出^{日本}ス^{日本}ノ野^{日本}ニキ^{日本}テ勝^{日本}テ言^{日本}フベ^{日本}カ
ラ^{日本}ガ其^{日本}監^{日本}ヲ貯^{日本}フルノ場^{日本}ノ多^{日本}キ^{日本}ト拂^{日本}郎^{日本}察^{日本}伊^{日本}
斯^{日本}把^{日本}尼^{日本}亞^{日本}波^{日本}尔^{日本}杜^{日本}瓦^{日本}尔^{日本}等^{日本}諸^{日本}國^{日本}ニ數^{日本}倍^{日本}ス^{日本}地^{日本}内^{日本}
廿二

都テ鹽脈多ク通シ日光ニ因テ自ラ煎敷セ
 ラレテ鹽塊玲瓏透明シテ恰モ水晶岩石ノ
 如ク恒ニ其圍ニ人手指ノ太サアル者ミツカ
 ラ地ヨリ出テ水ニ流ル人ノコレヲ採ル
 勝テ計フベカラズ故ニ其價モ亦賤シ鹽ノ
 重サ四十ポンド種アリハ斤量ノ名ニモ二
 等ニ用ル此方ノポンドハ父アリ尋常金鉄沙糖深料
 ハ父アリニテ半ストリハハハ父アリニテ半ストリハハ錢ニソ重サハ銀
 二アリ半ストリヘニアタル又具ノ鹽ノ一種
 淡青蓮色ヲイヌ者アリテコレハ拂郎察國

コリ所出ノ者ノ如シ凡其土鹽ヲ出ス
 多キ一終歲コレヲ採レテ散テ減スル
 クノ採尽スベカラズ故ニ莫斯科未亞才ヨ
 ヒ亞私大腺其ノ人專ラ此鹽ヲ以テ夥ク他
 國ト交易ヲナス而ソ此都ハドルゴト云ル
 島寫ルニカリ河上ニ在テ歐羅巴亞細亞ニ大
 洲ノ界ナリ故ニ諸國ノ商賈輻湊スルニ甚
 便利ナリ此都ノ周區都テ地不毛ニノ樹木
 廿三

アルコウヤシ
故ニ都ノ内外城郭人家屋室園圃等ニ所用
ノ木材ノ類ハ悉ク外ヨリコレヲ運送シテ
以テ造築ス此島ノ西邊ノ大地ノ如キ亦同
シク不毛ナルコトコレニ類ス然レモ其東邊
ノ大地ヤイリ河ニ至ルマデハ都ヲコレニ
及ビテ肥沃ニシテ甚良キ牧地アリ諸畜蓄
息ス

此亞細大臘罕ノ都城ハ古ノ世ニ韃靼ノ一國

主ヤスタカニ韃靼ノ人ハ王ヲ稱シテ云
ハリコレナル者始テ築ク所ナリ故ニ其王ノ
名ヲ以テコレニ命スルナリ此城周匝凡半
時程日本ノ四半其外面ニハ多ク高臺ヲ建
ツ其規制壯麗ニシ人ノ眼ヲ驚スベシ然レ
モ其内ハ却テ美麗ナラズ城牆ハ皆精緻方
整ナル石ヲ置テコレヲ築キ十ノ城門アリ
其六ツ皆河ニ臨ミ其地ハ陸ニ連ナル其陸
ニ連ナル内ノ一門ヲレハ子ボオル止ト
廿四

名ク此門ノ右邊ノ大街ヲバ「サヤル」又「ボル
スヤウリツ」ト云フ此處ニ魯西亜オヨビ亞
ル黙尼亞ノ富商大賈多ク居住ニ市店ヲ開
キテ貨物ヲ交易ス

此門ニ入ルノ左傍ニ「ホオ」フドケルク「其地内
大寺觀アリサボオル」ト名クコシ千六百九
十七年日本元禄十年清ニ「アールツ」ビス「ツプ」
僧官リ「カムソニ」ナル者始テ建ツル所ナリ
次テ千七百零一年日本元禄四年ニ其基

地尚未ダ堅固ナラズノ規制亦善美ヲ悉サ
ガルヲ以テ留コレヲ修造美飾ニ次年ニ又
五座ノ宝塔ヲ建テ其頂上皆縦横珽ノ形ヲ
ナス此寺ノ周圍ハ凡ニ百シケレエデニシ
ノケレエデニハ本朝其ホオルゲニハ「寺觀ニ
ハ廣サ四十七シケレエデニ
ニ「アールツ」ビス「ツプ」僧官ノ所居ノ府第ア
リコレ此都内ニ於テ其造建最エ妙ニシテ
皆石ヲ以テコレヲ作り甚廣大華麗ナリ

此都ヲ守ルノ「ゴウヘル」子ウル「都督」所居ノ府
第ハ城中ニ在リテ其規制亦甚廣大華麗十
リ然レ凡木ヲ以テコレヲ造建ニテ其塙亦
木ヲ以テコレヲ築ニ処ニ門ヲ開ケリ

カ「ポ」ルノ寺觀ハ其門前ニ保護ノ軍士ノ居
処ヲ攝ヘテ守備嚴重ナリ「ゴウヘル」子ウル
ノ所居ノ府第ハ其内ニ堂室甚多ク其制甚
華麗ナリ又別ニ一ノ大堂ヲ攝ヘ規制高上
ニ「高樓重閣」ヲ設ケテ最人ノ目ヲ駭スニ

足ル府第ノ周圍ニハ皆巨砲ヲ列不飾リテ
亦守備ヲ嚴ニセリ

カ「ン」セラアル「政事文書等」所居ノ府第ハ城中

ノ右傍ニアリテ石ヲ以テコレヲ作り亦多
クノ堂室ヲ設ク其内「ゴウヘル」子ウル時ト
メ至リニ坐スルノ堂ハ別ニコレヲ攝ヘ其
所供ノ卓ハ恒ニコレヲ置テ飾リテ赤キ絨
緞ヲ以卓上ヲ覆フ

上ニ云サ「ポ」ルノ寺觀ハ其造建ニ用ル所ノ
廿六

石ハ皆石灰ノ最白キ者ヲ用テ其上面ヲ塗
彩シ屋尾ハ皆鍍金ヲナシ屋上ニ一ノ縦横
斑ヲ立ツ亦鍍金ヲ用エ其斑ノ高サ三托托
ハ日本曲尺七十リ又鐘ヲ懸クルノ宝塔ノ
尾ハ綠色ヲナス此他府内ニ二ヶ処ノ木ヲ
以テ造レル寺觀及ヒ説教処アリ又府外ニ
モイワニスケト名クル説教処石ヲ以テ長
扉ニ造建セラル者亦ヨビニノ寺觀アリテ其
ニ河流ニ臨メリ

其府内、街衢ハ多クハ其幅廣カラズ晴天ノ
時ハ路稍乾キテ往来ニ宜シト雖陰雨ノ
時ハ地底ヨリ鹽氣上昇シテ街上沆瀣汚穢
ナリ其鹽氣ノ故ニ晴天ニテ路乾クトキハ
都テ白色ヲナシ陰雨スレバ亦ナシ泥滑ス
ルナリ

韃靼ノ人此処ニ多ク市廛ヲ開キ魯西亞才ヨ
ビ亞爾默尼亞ノ人ト貨物ヲ貿易ス而シテ韃
靼ノ人ハ毎日且ニ廛開キ午後ニ至レハ
廿七

魯西亜ノ人壘ヲ開キ亞ル默尼亜ノ人亦コ
レニ交リテ壘ヲ開ク韃靼ノ人所居ハ此府
ノ一辺カ^カルワ^ンセ^ラト云^ル処ニシテ大ナル館
ヲ構ヘ其内ニ聚リ居テ石ヲ以テ方形ノ墻
ヲ築キニツノ門ヲ開キ守門ノ卒アリ日夕ニ
至レハ即テ門ヲ閉ツ亜ル默尼亜ノ商賈所
居ノ館ハ韃靼人ノ館ノ一門ニ對ス皆木ヲ
以テ家トナス然レハ大災ヲ怕レテ貨物ヲ
貯ルノ庫ハ石ヲ以テコレヲ築ク其形方ニ

ソ徑リ四丈餘アリ近時ハ其人益多キヲ以
テ其館モ亦甚廣大ニ増シ造レリ

魯西亜ヨリ此地ニ道リ所ノオニテ^ルゴウヘ
ル子^流副^都一員^官ニ^ビエ^ルメ^エス^テル^ル
宰^邑三員コレハ共ニ城外ノ府内ニ居ル而シ
其^中一員^ハゲ^ルメ^エス^テル^ルノ三員第一員ハ府
内政法ノ事ヲ掌リ第二員ハ諸商賈貿易旅
館酒稅等ノ事ヲ掌リ第三員ハ事ヲ漁獵ノ
稅ノ事ヲ掌ルナリ

此府ノ外郭封疆一面ハ河ニ沿テ府ヨリノ東
方ノ^クウツウメト云ル河ノ高ル加河ニ合
スル処ニ至リ軍卒等多ク居住ス又一面ハ
府ノ隅ヨリリテ名ケテバルダト云フ

上ニ云ヘル館ヲ構ヘテ居ル処ノ韃靼ノ人ハ
世ニコレヲ稱シテアスタラカニイニテア
子ニト云フ其俗毎歳一タビ定メレル時節
アリテ其期ニ至レハ皆相會ニ各頭ヲ剃リ
其僅ニ留ムル頭髮ノ処ヲ剃ナル剃日ヲ以

テコレヲ剃シテ血ヲ出シ血流シテ頬ニ被
ルコレ僧ノ如キ者アリテ其剃ントスルノ
前ニ各人ノ頭上ヲ一剃ス而後各人コレヲ
剃ル若其剃リ又ハ剃スト式ニ合ハザル者
ヲバ僧コレヲ檢視シテ即ソレヲ剃リ刺
ス一必ス式ノ如クニセシム而後皆舞踏飛
跳ニ頻リニ連呼メ曰ク^シクセクセ^クセ^クセ^クセ
クセト又ハ^バッソウバクワウト連呼スコ
レ^シユクセクセハ神ノ名ニシテ則ケコレ

ヲ祭祀スルノ禮ナリ

又「キリム」及ヒ南^ナ幹^カ亦ノ韃^タ鞑^タノ種族重私大臘

其ノ州中ニ居ル者ハ制アリテ此府城及ヒ

諸郭邑ノ内ニ居ルヲ許サズ其人皆穹廬

ニ居リテ自ラ分レテ多ノ部落ヲナス其穹

廬形ハ鸚^カ鵝^カノ巢ニ似テ規制低ク平ナル木

若ハ蘆^カ葦^カノ類ノ幅二三寸ナルモノヲ聚メ

テコレヲ造リ駝馬等諸畜ノ毛ヲ聚メテ其

間隙ヲ塞キ屋上ニ烟窓ヲ開テ以テ内ニテ

火ヲ焚ク所ノ烟ヲ洩ス其貴者ノ如キハ留

穹廬上ニ竿ヲ建ツ其高サ四五尺コレニ種

々ノ色彩ヲナス布帛ノ類ヲ綴リ合セテ帆

ノ如クナセル者ヲ廣キ帶ヲ以テ固ク其竿

ニ結フ此帆ハ如キ者其大キサ穹廬ヲ掩フ

ニ足リ其卷舒ヨリ人意ニ任スコレヲ以テ

暴風若ハ烈日ヲ防ギ又寒時ニハ火ヲ焚テ

後コレヲ以テ烟窓ヲ掩ハバ則其穹廬ノ内

温暖ナルヲ恰モ「カツケル」火^カ爐^ケヲ用

三ノ如キ器ヲ用

タルガカシ夏月ニ至レハ其人皆定居ヲ占
ムルナシ各己レガ意ニ任セテ分散遷居
シテ水旱ヲ逐フ若其所居ノ地ニ水旱乏シ
ケレハ即チ其穹廬ヲ車ニ駕シ其妻子徒類
器財及ヒ所畜ノ牛羊駝馬ヲ携ヘテ他ノ水
草ノ豊ナル処ヲ撰ミテコレニ遷ル故ニ莫
斯哥未亞ノ人コレヲ名ケテホロウツイ
ト云フコレ其諸処ヲ巡行シテ定居ナキノ
徒ト云ヘル義ナリ其人身材肥テ短ク潤面
細眼其面色黄ラ帯テ皺アリ頭髮皆コレヲ剃
テ惟僅ニ下頷ノ鬚ヲ留ム灰色ノ哆囉絨ヲ
以テ長キ衣トス其内ニ南幹牙ノ種族ハ黒
羊皮裘ヲ以テ其上ニ加フ首ニ氈巾ヲ戴キ
其制外ニ向テ曲レリ婦々ハ形容汚醜ナラ
ズ白布ヲ以テ衣トナシ亦頭ニ氈巾ヲ戴ク
其形圓クメ被積アリ頗ル瘡ノ制ニ似タリ
頂ノ中央ニ管アリ一束ノ鳥羽ヲ其中ニ挿
ム其人都テ獸ヲ獵リ魚ヲ漁シテ生トナス

其所畜ノ牛ハ甚肥重ニシテ多ク恰モ波羅
泥亞國ニ所産ノ牛ノ如シ羊ハ其耳垂シテ
形我邦歐羅巴ノワアテハホニテニ水狗ニ任
ニ類ス其鬣ハ曲リテ上ニ向テ及リ其尾ハ
極テ肥大ニシテ肉ハ都テ脂膏盈テルト恰モ
百鬼西亞國ニ所産ノ羊ノ如シ尾ノ重サ三
四十斤ニ至ル本羊綱目ニ云フ大尾馬ハ小
羊ノ種類ナルベシニノ形容ハ亘ミカラズト雖氏甚駿健ニシ
テ人ノ用ニ供スルニ良シ駝ハ其脊ニ二瘤

アル者ハ名ケテボツギト云フ平常多ク所有
ナリ又其脊ニ夕ト一瘤アル者ハ名ケテト
空ト云フ此種ハ見ルト頗ル稀ナリ其人平
常食料ニ供スル所ハ乾魚最多シ又禾麥ノ
類ヲ粉トナシフレニ油若クハ蜜ヲ拌ヘテ
蒸餼ヲ製ス又好シテ駝馬ノ肉ヲ啖フ其飲
物トスル者ハ水カヨビ畜獸ノ乳汁ニシテ而
ソ其中ニ於テ馬乳ヲ以テ絶品トス故ニ異
邦ノ人其地ヲ過クルニ遇ヘバ動モスレハ
三十二

テ異端邪教トシ百見西亜ノ人モ亦韃靼ノ
宗派ノ祖師ヲ罵讎シテ異端邪教ナリトス
其議論甚喧嘩ニシテ共ニ一理ヲ執テ争辨
止レズ且此二國ノ教門皆素ヨリ魯西亜ノ
教ト異ナル者ナレバ其曲直ヲ判断スル
益ナキヲ以テ唯韃靼及ヒ百見西亜ノ人ノ
内ニテ其長老稍事理ヲ解スル者ヲ召シ成
諭シテ多クノ其衆ニ説カシメ共ニ和睦ニ
テ其争訟ヲ止メシメリ

此韃靼ノ種族垂私大臘其ノ州中ニ來テ散居
スル者其此地ニ於テ生シタル者ヲ巴魯西
亜ノ人呼テエルトスゴト云フナリ

此種族此ニ居ル者ニハ魯西亜ノ官府ヨリ敢
テ其賦税ヲ徵セズ惟其長タル者ニ命シテ
若軍隊ノ事アルトキハ兵ヲ出サシメテ以
テ魯西亜ノ軍ヲ助ケシム故ニ事アルトキ
ハ其長タル者官府ノ命ヲ奉シ其徒衆ノ精
銳ナル者ヲ撰ニ毎ニ軍卒二萬人ヲ出シ官

府ノ用ニ供ス其婦人毎ニ魯西亜ノ衣服ノ
制ニ倣ヒテコレヲ縫ヒ亜私大臘其ノ府内
ノ互市場ニ輸ノ貿易ヲナス又其絲ヲ絢ル
車等ノ制ハ拂郎察國ノ婦人ノ所用ノ制ニ
倣ヘリ

此種族其人都テ質朴ニメ親睦又能異邦ノ人
ヲ禮待ス時其陋俗奇ニメ笑ベキヲ多シテ
七百十五年日本正徳五年清康熙五十四年
人其婦ヲ携ヘテ亜私大臘其ノ府城ニ來リ

住スル者アリ偶々鞆靴ノ一富人ト相識ル
トヨ得タリ此鞆不甚其拂郎察ノ人ト深ク
交ヲ結ハシテ欲ス因テ數々コレニ親近
シテ拂郎察ノ人ヲ請フテ己レガ穹廬ニ招
カントス拂郎察ノ人初メコレヲ敢ンゼス
既ニシ其數々請フニ因テ即チコレニ赴キ
テ約ス鞆人大ニ喜フ乃チ其期ニ至テ人
ヲ遣ハシテ拂郎察ノ人及ヒ其婦ヲ迎ヘ導
キテ府ヲ出ルル數里ニシテ其穹廬ニ至ル此

穹廬ハ即チ上ニ云ルガ如ク夏月ニ至テ頃
口邊タル者ニシテ一ノ小キ樹林ニ傍ヒテ
清致雅趣アリ其所設ノ穹廬ノ帷帳幔幕皆
精美ナリ拂郎察人坐シ畢レハ即先烟草ヲ
供ヒ彼韃人コレヲ迎ヘテ其狂駕ノ厚意ヲ
謝シ其コレヲ待スルノ礼甚懇切ニス俄
ニシテ「コッヒイ」ニ種ノ樹上ニ生スル果實ノ仁
毎日服用及糖糕ノ類ヲ薦ム其品及ヒ器皿
皆美潔ナリ己ニシテ談笑方ニ洽フノ間拂

郎察ノ人偶々其家眷アルヤヲ問フ韃人ノ
曰ク深交ヲ結テ且下顧ラ忝フス願クハ家
眷ヲ見ミヘ奉ラシメテ永ク相好スルノ
契ヲ結バント頃クシテ美飾盛装セル婦々
七人アリ緑色ノ幔ヲ掲ケテ出ツ前ニス、
ミテ礼ヒ拂郎察ノ婦ノ側ニ侍ヒテ情意甚
懇懇ヲ尽ス而シテ後ニ拂郎察ノ婦ヲ請フテ
韃靴ノ婦ノ所居ノ室ニ迎ヘ皆相携ヘテ入
ル韃人ハ拂郎察ノ人ニ陪ヒテ饗饌美酒ヲ

供ス其冥正ニ奉テラントスル寸忽テ拂郎
察ノ婦内ノ深キ処ニ在テ哀呼ミテ救ヲ求
ムルノ聲ヲナス拂郎察ノ人驚キテ起ツ韃
人止メラ曰ク驚クテ勿レ彼等今礼ヲナス
ノミ拂郎察ノ人ツイニ安ニゼズ即チ忙シ
ク彼処ニ趣テコレヲ見ルニ先キノ七人ノ
婦女拂郎察ノ婦ヤラメ衣服ヲ著セシメ居
タリ拂郎察ノ人ヲ見テ皆笑テ曰ク礼ヲオ
未ダ悉サズ請フ姑ク退ケト拂郎察ノ人其

意ヲ解ヤス韃人ノ曰ク凡我ガ土ノ風俗親
交ノ家ニテ其婦女初メテ相見ルノ時ハ先
ツ容タル者ヲ請フテ赤裸ナラシメテ又衣
ヲ着セシメ而後ニ主タル者亦赤裸ニメコ
レニ對スコレ我カ俗ニ於テ重礼トスト蓋
シ其文ヲ結ブテ一家ノ如クスレバ即其内
外少シクモ問ナキヲ表スルノ意アリ向キ
ニ七人ノ婦女拂郎察ノ婦ニ請ヒ強ヒテ其
衣ヲ解キ赤裸ニセシニ因テ拂郎察ノ婦ハ

其所以ヲ解セズ驚怖羞慚スルニ因テ哀呼
セハナリ拂郎察ノ人驚キ且笑フ然ソ思ヘ
ラク此ニ久シク居リナバ尙此類ノ奇礼ア
ラ去^去ト何^何即^即子^子草^草甚^甚不^不解^解妻^妻
ノ府ニ歸ル韃人大ニ悔工明日種々ノ礼物
ヲ具ヘテ府ニ往テ拂郎察ノ人ニ遺テ累ヲ
得タルヲ謝シ其怨宥ヲ請ヒ尙永好ヲ希
ヒシト云

此韃人ノ内貴者ハ其穹廬ノ中ノ平ナル処ニ

ハ皆花壇ノ類ヲ布キ又高キ床ヲ置キ美飾
ヤル櫃箱ヲ其上ニ置テ日用ノ器財ヲ貯フ
此韃人ノ俗大ニ亜刺比亞人ノ俗ニ似テ奢侈
ヲ好ミ美廉ノ殿閣タリト雖凡敢テ定居ヲ
欲セズ又コル子リス、テブロイニト云ヘル
人ノ韃人ノ内ノ一貴婦ノ像ヲ生寫セルヲ
見ルニ其服飾皆美玉明珠金銀諸宝ヲ用ヒ
テ其壯麗ヲ恣ヤリ蓋コシ其種族ノ内ニ於
テ最富貴ナル者ナルベシ

雖氏莫斯哥未亞及ヒ韃靼ノ人共ニコレヲ
 食ハズ禽鳥亦甚夥シ多クハ河中ノ小島嶼
 ノ蘆葦多キ處ニ於テコレヲ捕フ野鴨ノ一
 種其色赤多キ者アリ韃靼ノ人鷹及ヒスベ
 ルケルスス鵠ノヲ用テコレヲ捕獲ス其コレ
 ヲ用ユルノ法頗異ニシテ所獲甚多シト云
 又野猪ヲ獲ルルト甚多シ然レ氏韃靼ノ人ハ其
 所奉ノ教門ニコレヲ忌ムヲ以テ敢テコレ
 ヲ食ハズ忌ムトハ諸書ニ見ユ猪肉ヲ唯賤價

ヲ以テ莫斯哥未亞ノ人ニ賣リ與フルノミ
 亞松大臘耳ノ地上ニ云ヘルガ如ク雨少ナク
 ノ種藝等ニ宜シカラズ然レ氏造化ノ功誠
 ニ妙ナルトアリテ窩ル加河ハ恰モ厄入多
 國ノ泥祿河ノ如ク洲ハ多ク其國亞弗利加
 テ雨アリテ泥祿河ト然レ氏其國ニ天下第一
 大河アリテ泥祿河ト名ク此河水毎年彼邦ノ
 五月ヲ以テ大ニ漲テ地ニ溢ル種ヲ下ス諸
 國人水ヲ退クテ以テ漲テ候トシテ種ヲ下ス諸
 穀ノ莖皆繁茂ス此國兩河トシテ種ヲ下ス諸
 藝ノ功全ク此河水ニ賴ルト雖云種毎年
 春ニ至レハ其水大ニ漲リテ河身潤サ十二

四十

三里本朝五里ニ及ビ水兩岸ノ平地ニ溢シ
テ所積ノ雪ヲ消シ凡ニ十八九日ノ間ハ平
地水深キ一四尺有餘ニ至ルコシニ因テ稍
其土ヲメ肥沃ナラシメラ草菜繁茂シ夥シ
キ牛羊駝馬等諸畜ヲ牧スルニ足ルト云

凡諸種ノ菓蔬ハ皆他邦ヨリ其種ヲ輸送シテ
コレヲ栽ユルニ今都テ繁茂シテ其性功而
見西亞國ニ所産ノ者ニ異ナルヲナク且其
味ノ美ナルヲ亦劣ルヲナシ其内最貴ニト

スル所ハ蒲萄ニメ次ハ西瓜又次ハ南瓜ナ
リ其西瓜ハ韃靼ノ人ハ呼テ「カルブスト」云
ニ莫斯科未亜ノ人ハ呼テ「アルプスト」云此
菓甚美ナリ而見西亞ノ人ハ呼テ「クニ」云ア
子ト云コレ此菓ノ種其原始印度ノ地ヨ
リメ傳ヘタル者ナリ故ナリ菓ノ觀甚美
ニメ味亦殊ニ美ナリ綠皮紅肉ニメ核ハ黒
ニ韃人等毎ニ十餘車或ハ二十餘車ニ載セ
ニ亞松大曠其ノ府内ノ市ニ輸送ス其價ニ
四十一

三枚ニテ一「ストイヘル」ハ銀錢ニ分ニアタル
 其蒲萄ノ如キハ今ヲ去ル「此原書刊」
ハ我邦延享 年ニアタレリ刻ニ百見 西亜國
 ノ賈人始メテコレヲ此地ニ携ヘ來タヤニ
 一儒コレヲ府内ノ寺院ノ園ニ種ヘテ甚
 繁茂ス魯西亜ノ大君命ニテ試ニ其菜汁ヲ
 搾テ酒ヲ釀サシムニ酒成テ甚美ナリコレ
 ヨリニテ尚多クコレヲ種ヘテ其種蔓行シ
 其後次第ニ多クニテ府内各家ノ花園大抵

蒲萄十キハ十ニ其子皆能ク熟シ人皆心ヲ
 用テコレヲ培植スルニ因テ所釀ノ酒亦多
 シ毎歳酒税ニ百ギルニ「ギル」ハ銀錢
 ニ至レリ

今ハ此府ノ周匝ニ蒲萄ヲ種ルノ山甚多ニコ
 レ皆魯西亜之帝命ニテ種ヘシムル者ニソ
 其酒ヲ造ルノ利極テ夥ニ其樹皆甚蔓衍繁
 茂スコレヲメ皆男子ノ立テルノ高サ十ラ
 シメテ樹傍ニ多ク木柵ヲ建テ其蔓ヲメコ

レニ繞ラシムコレモスコウノ人ヤアツプ
ボットニナル者ホルスライニ其地ハ馬
アリ公爵ノ國公ノ苑園ヲ管トル官人ヨリ
其栽培ノ法ヲ傳ヘテ此地ニ種ヘテヨリ
如此ニ繁行スルニ至レルナリ此他諸菜林
檮梨杏ブロイメニ類ノ胡桃ノ類ハ亦尋常極
テ夥シクメ取ラ奇ト稱スルニ足ラズ
上ニ云ゴトク此府ノ地多クハ乾燥ニメ沙多
キガ故ニ其蒲萄西瓜等多クハ河ニ近キ処

ニ傍ヒテ長クコレヲ列植シ處々ニ多ク水
車ヲ製シ其灌溉ニ便リシ又地理ヲ詳ニシ
テ多ク水道ヲ開キ井ヲ鑿キコレニ因テ府
ノ内外皆水ヲ缺クナクシテ其用甚便利
ナリト云

凡此府城及ビ亞私大臘耳ノ全地ハ其初メ千
五百五十四年日本天文二十三年ニ魯西垂
ノ大君ヨリハニ子スバヒリテス韃靼ノ人ヲ擊
破リテコレヲ服從セシメ魯西垂ノ郡縣ト

ナニテコシヲ治ム其後大君ミカアルヘド口
イスノ世ニ至リテ此府ヲ増擴ケテ修造ヲ
加ヘテ其界疆ヲ固クニ連リニ徳化ヲ施シ
テ其人ヲ懐ケテ今ハ遂ニ上ニ云ヘル如キ
富饒繁庶ノ地トナセルナリ

此府ノ地ハ昔ノ時ニ於テハ
山嶽ノ間ニ在リテ人跡ノ
未ダ及バズ今ノ時ニ於テハ
郡縣ノ制ニ入リテ人跡ノ
及ビテ人煙ノ盛ニ成リ
其地ノ富饒繁庶ノ地トナセルナリ

